

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

# ちばの地域福祉

## 「地方が決める、ということ」

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

明治期以来この国が目指した近代国家づくり、その行政システムが中央集権と言われるものでした。権限、権力を中央省庁に集中させ、地方自治体はその意に従い執務する。つまりは、トップダウン式の命令指揮系統です。

「地方のことは、地方に任せて」。時を経て、社会のあらゆるシステムに不具合が生じてきたとき、この言葉が頻繁に聞かれるようになりました。国としてやらねばならぬこと、地方の事情に則して柔軟に取り組みねばならないこと、つまり全国一律の金太郎飴式では無理があったり無駄であったりと。

“ひも付き補助金”が話題になりました。地方が行う事業に国から補助金が出るが、国のルール厳守が条件であり地方の特色等は考慮されない。これでは、地方が使い辛しい結果住民利益に繋がらない、と。

地域の事情やその主体性を考慮して行政を機能させる、“地域主権一括法”が今般施行され、国と地方の関係が新たな時代を迎えるのかも知れません。が、本来の民主主義や住民自治が根付いていないこの国で、地域主権とは何を指すものか、よくよく考えてみたいものです。

さて、障害福祉への影響は…。障害福祉サービスや支援施設の設備及び運営に関する事項が都道府県や政令市、そして中核市により厚労省令を視野に入れながらも、独自に決定することが求められています。その地域の諸事情を十分に斟酌しながら、必要とする人に質量ともに届く施策が講じられれば言うことなしです。しかし、元来脆弱な国の施策である場合、そこに地方がしわ寄せ的な施策を講じてしまうなら…。「グループホームが足りない、定員4人や5人では埒が明かない。うちは10人でもどんどん認めよう」、「居室は原則3人でもOKだ」万が一こういうことになれば、本末転倒です。障害福祉行政に関して、市町村の格差は歴然としています。私の町に相応しい障害施策の実現には、当然その町の住民の声が届かなければなりません。

# ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

## 「NPO法人 I C C」 理事長 さとう みちやす 佐藤 通安 氏

**55歳**のときに脳梗塞で倒れ、右半身不随、言葉を失い、5年間社会から離れ、家に引きこもる生活をしていました。そのようなときに身体障害者福祉会のメンバーとの出会いがあり、その仲間が私を地域で開かれている勉強会に連れ出してくれました。仲間の紹介でボランティアに参加する機会があり、そのときに自分よりも重い障害を持った方々が一生懸命生きている姿に心打たれました。そこから、自分のリハビリとも向き合い、3年間かけて言葉を取り戻しました。それが自信となり、**一支援てくれた方々への恩返しを**一という一心で社会活動への参加を決意しました。

**始めに**市内の障害者団体に協力を呼びかけ、体力の維持・向上、余暇活動の観点から重度障害者も参加できる「**バリアフリースポーツ教室**」を企画、開催しました。これをきっかけに団体同士の横のつながりもできました。現在、8年目になりますが、スポーツを通して色々な人と交流することも活動の大きな柱となっています。

**I C C**では障害の垣根を越えて、経済的、身辺的自立に止まらず、重度障害者の自立もめざした支援をしています。ここに来ている人が、何か一つでも自分にできることを見つけ、それを自分のものにし、自信を持って次のステップに進めるように応援しています。その中で大切にしていることは、**参加していることから就労と認める**ことです。私自身、周囲の人が私の社会参加を認め、応援してくれたことが大きな支えになっています。参加をしても否定されていたら、今の私はないと思います。

社会福祉法人等が行なっている比較的大きな施設や事業所、我々のように当事者が中心となって行なっている事業所など、様々な資源があってこそ地域が成り立つのだと思います。我々のような当事者の活動がもっと広がり、小さな単位でも資源が増えていくことを望んでいます。一步ずつ理想に近づいていけたらと思っています。

**御年72歳**の佐藤氏はI C Cの理事長以外にも、**市原市内の8つの障害者団体が集う連絡協議会の会長、バリアフリーフォーラムの実行委員長、自立支援協議会の委員、市原市交通活性化協議会の副会長**等、多岐にわたって活動をしています。

「自分が障害当事者となりわかったことは、健常者と当事者では発想の次元が違うということ。私は当事者だからこそ、こうして多くの活動に参加させてもらっているのだと思う。様々な場面で当事者の一人として代弁していく必要があり、それは私の役目である。これからも正しいことは“正しい”と言い、まずは自分が動いて、人を動かすことを大切にしていきたい。」



事業所名 ■ NPO法人 I C C (市原市障がい者センター)  
所在地 ■ 〒290-0023  
千葉県市原市惣社 1-1-23  
杉田第2ビル 101号  
事業内容 ■ 基本的福祉の向上事業/就労支援事業  
日中活動及び移動支援支援事業  
T E L ■ 0436-98-5139  
F A X ■ 0436-98-5148



## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

### NPO市川ガンバの会シンポジウム

#### 「生活困窮者のケア付き住宅を考える 絆から家族へ」

- 【内容】** ◆講演会 「絆から家族へ」 講師 奥田 知志 氏（NPO法人北九州ホームレス支援機構代表）
- ◆ミニコンサート 歌手 沢 知恵 氏
- ◆シンポジウム 「絆の再生」誰かと共に～「ケア付きホーム」の必要性を考える
- ◆パネリスト 奥田 知志 氏（NPO法人北九州ホームレス支援機構代表）  
池田 徹 氏（社会福祉法人生活クラブ風の村理事長）  
山本 美香 氏（東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科准教授）  
副田 一朗 氏（NPO法人市川ガンバの会理事長）
- 司 会 朝比奈 ミカ 氏（中核地域生活支援センターがじゅまる所長）
- 【日時】** 平成 23 年 11 月 26 日（土）14 時～17 時（13 時 30 分開場）
- 【会場】** グリーンスタジオ（市川市生涯学習センターメディアパーク 2 階）
- 【参加費】** 無料 **【申込み】** 不要
- 【問い合わせ先】** NPO 法人ホームレス自立支援市川ガンバの会 TEL/FAX：047-704-9915  
E-mail：[ichikawa-gamba@abelia.ocn.ne.jp](mailto:ichikawa-gamba@abelia.ocn.ne.jp) <http://ichikawaganba.fc2web.com/>

### 千葉県NPO会議2011「NPOの収益モデルを探る！」

- 【内容】** ◆基調講演（14 時 10 分～15 時 35 分）
- 「3 年間で就労・生活支援の場 16 箇所を開設-障害者が地域社会で働く喜びをサポート」
- 講師 友野 剛行 氏（ワーカーズハウスぐらすグループ代表）
- ◆分科会（15 時 50 分～17 時 30 分）
- ①被災地に生きるネットワーク-NPO の被災者支援
  - ②活動資金の調達-融資の活用
  - ③地域交流の場をつくる！-コミュニティビジネス
- 【日時】** 平成 23 年 12 月 10 日（土）14 時～17 時 30 分（13 時 30 分開場） **【定員】** 100 名（先着順）
- 【会場】** 千葉市ビジネス支援センター会議室 1～3 （きぼーる 13 階：千葉市中央区中央 4-5-1）
- 【対象】** 県内 NPO のメンバー、中間支援組織、関心のある方 **【参加費】** 500 円（当日支払）
- 【申込み】** 必要事項を記入し、メールまたは FAX にてお申し込みください。※申込締切 12/2（金）
- ①参加者名②所属③TEL/FAX④メールアドレス⑤参加したい分科会の番号（第 1 希望・第 2 希望）
- 【申込み・問い合わせ先】** ちば NPO 協議会（事務局：NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ）  
TEL：043-303-1688 FAX：043-303-1689 E-mail：[npo-club@par.odn.ne.jp](mailto:npo-club@par.odn.ne.jp)

## の だ ネット (野田圏域)

平成16年10月に、障害者支援施設・施設入所支援事業所くすのき苑等を運営する「社会福祉法人いちいの会」が委託を受け「のだネット」を、野田市全域を対象エリアとして開設しました。

野田市は千葉県の北西部に位置し、江戸川を隔てて埼玉県、利根川を隔てて茨城県と隣接しています。自然豊かな野田市は、全国有数の枝豆の産地。各福祉施設も協力仕合、生産に取り組んでいます。

枝豆キャラクターのコミュニティーバス「まめバス」が市内をくまなく巡回しています。お年寄り、障がい者に優しいバスとして、市民生活になくってはならない交通手段です。そして桜の名所、清水公園・関宿城、キッコーマン醤油工場など見所が盛りだくさんの市です。

のだネットのスタッフはGH支援ワーカーを含め6名。直接支援に関わるのは4名で、毎月700～850件の相談に対応しています。(実人数・約120人)

障がい者の相談は約60%・児童20%・高齢者13%・その他7%の割合です。

福祉サービスの利用・介護者の支援・児童虐待(ネグレクト)・生活困窮者への支援が最近増加傾向にあります。関係機関と連携を図り、より良い支援に繋がるよう「フットワークのだネット」の評に気を良くして、毎日走り回っています。

(記：地域総合コーディネーター 金城 和子)

### ☎ 連絡先

中核地域生活支援センター のだネット

〒270-0235 野田市尾崎 840-32

TEL：04-7127-5366

FAX：04-7127-5367

E-mail：[noda-net.kusunoki@nifty.com](mailto:noda-net.kusunoki@nifty.com)

HP：<http://homepage2.nifty.com/noda-net/>



発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：香取ネットワーク（香取圏域）香取市北1-11-18 TEL:0478-50-2800 FAX:0478-50-2881

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：丸山）までお願いします。